

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00443

研究課題名(和文) 西洋古典文学における神話叙述に関するナラトロジーの観点を応用する比較作品論研究

研究課題名(英文) A Comparative Literary Study on Mythological Descriptions of Classical Literature Applying Narratological Perspectives

研究代表者

佐野 好則 (Sano, Yoshinori)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：50295458

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：日本において導入が遅れている西洋古典文学作品研究におけるナラトロジー研究の観
点の導入を進めるため、研究代表者は神話叙述の解明に適したナラトロジー研究の理論的な枠組みを構築し、ホ
メロス叙事詩『イーリアス』と『オデュッセイア』、ヘシオドス叙事詩『神統記』と『仕事と日』、ギリシア悲
劇『縛られたプロメテウス』、プラトンの対話篇を主な研究対象として分析・検討を進めた。その研究成果を
国際的な学会での口頭発表を通じて発信した。また予備的な成果を国内の研究誌に掲載発表した。さらに海外の
出版社からの出版に向けて作業を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西洋古典文学作品研究におけるナラトロジー研究の導入は、欧米諸国と比較して日本では大幅に遅れていると言
わざるを得ない。この状況において、本研究の意義は、日本においてこれまで十分に理解されていなかった、文
学作品内の叙述の話者と作品内容の関連という研究課題の重要性の認識を日本の西洋古典文学研究者に促す学術
的意義がある。

研究成果の概要(英文)：In order to promote the introduction of the perspective of narratology
research in the study of Greek and Roman classical literature, which has been delayed in Japan, the
principal investigator constructed theoretical frameworks for narratology research suitable for the
elucidation of mythological narratives. The Homeric epic poems, Iliad and Odyssey, Hesiod's epic
poems, Theogony and Works and Days, the Greek tragedy, Prometheus Bound, Plato's dialogues were
analyzed and examined as the main research subjects. The results of his research were disseminated
through oral presentations at international conferences. Preliminary results were published in
domestic research journals. Furthermore, preparations were made to publish these results from
overseas publishers.

研究分野：西洋古典学

キーワード：西洋古典学 古代ギリシア叙事詩 古代ギリシア悲劇 プラトーン対話篇 ナラトロジー 神話叙述

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等につ
いては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の西洋古典文学研究においてナラトロジーの視点の導入は欧米諸国とくらべて立ち遅れているといわざるをえず、西洋古典文学の代表的な作品における神話叙述の研究においても、文学理論的な基礎に基づいて、作品内の話者に注目する研究を進展させることが望まれていた。

研究代表者は西洋古典文学作品における神話叙述に応用しうるナラトロジー研究の方法論的基礎を築くための文献調査を行い、またこの方法論を用いて効果的な比較作品論的研究を行うに適した西洋古典文学作品の選定を進めつつ、本研究の準備作業を行った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ナラトロジー研究の方法論を応用することにより、西洋古典文学の代表的な作品における神話叙述を、従来の研究では十分に解明されていなかった叙述形式と叙述内容との切り結びを実証的に解明することにある。取り上げる西洋古典文学の代表的作品としては、ホメロス叙事詩『イーリアス』および『オデュッセイア』、ヘシオドス叙事詩『神統記』と『仕事と日』、ギリシア悲劇『縛られたプロメテウス』、さらにプラトーン対話篇における人間の死後の魂についてのミュートスと宇宙/人間の始原に関するミュートスが主な研究対象作品として設定された。

3. 研究の方法

ナラトロジー研究の理論的基礎の構築に関しては、I. De Jong および S. Richardson による先駆的研究に加えて、Jonas Grethlein による *Das Geschichtsbild der Ilias* および *Die Odyssee* 等のより最近の研究をも参考にした。それぞれの主要作品については、各種校訂本、注釈書、研究書の文献調査を行い、比較作品論研究のための基礎的作業を進めた。

この理論的基礎をギリシア悲劇『縛られたプロメテウス』に応用し、この作品においてプロメテウス神が人間の女性であるが姿を牛に変えられたイーオーに対して遠くエジプトまでの旅路を語る旅路予言の箇所を話者と聞き手の立場が、どのように叙述内容に反映されているかを実証的に解明した。特に実際の地理上の位置としては黒海の西に位置付けられるべきコーカサス山脈が、プロメテウスによる旅路予言においては黒海の北に位置付けられていることが従来の研究において大きな解釈上の難点とされていた。この点について本研究ではイーオーが黒海を渡る前の地域に比較的知られている地名や居住者があげられ、黒海を渡った後に神話的地名や比較的知られていない地名が挙げられていることとの関連に注目し、コーカサス山脈がイーオーが海を渡る前の黒海北部に位置付けられるのは、当時のギリシア人にとって比較的よく知られていた他の場所と近づけるためという意図が働いているというオリジナルな解釈を、作品原典の詳細な分析によって論証した。

ヘシオドス叙事詩『神統記』および『仕事と日』に関しては、海外研究協力者である Victor Castellani 教授 (University of Denver) を招聘し、2023 年 12 月 5 日にこれらの叙事詩作品におけるプロメテウス神話の叙述についての講演をしていただき、その後の質疑応答において本研究への貴重な示唆を得た。それをもとに『神統記』および『仕事と日』における大地ガイアの役割をナラトロジー研究の観点を応用して分析することにより、従来は十分に理解されていなかった、『神統記』における人格化されたガイアと『仕事と日』における人格化されていない大地との相違点と連続性をあらたな観点から明らかにした。『神統記』における擬人化されたガイアと擬人化されていない大地を分離することなく連続的にとらえることにより、『神統記』における 3 代にわたる王権交代の物語におけるガイア/大地の役割を、従来の研究よりもより正確に把握した。他方、『仕事と日』における擬人化されていない大地がゼウスの支配のもとでの正義の実現において果たしている役割と、『神統記』においてガイア/大地が果たした役割とを比較・対照を通じて、従来の研究では見過ごされていた、『神統記』から『仕事と日』への連続的变化をたどることができた。

ホメロス叙事詩に関しては、2023 年 12 月 8 日に Victor Castellani 教授を招聘し、『イーリアス』のプロット構成についての講演をしていただき、その後の質疑応答において本研究への貴重な示唆を得た。また 2024 年 2 月 23 日には海外研究協力者である Daniel Rinaldi 教授 (Universidad de la Republica (Uruguay)) を招聘し、古代ギリシアにおけるエクフラシス技法 (文学作品における美術工芸品の描写) の歴史とホメロス叙事詩『イーリアス』第 18 歌におけるアキレウスの盾の描写に関する講演をしていただき、その後の質疑・応答の際に本研究における貴重な示唆を得た。

プラトーン対話篇におけるミュートスの検討に関しては、『パイドーン』および『ポリーテイア』に関するナラトロジー研究および文献学的研究を進めた。

4. 研究成果

研究代表者は本研究の予備的調査としてオルフェウス研究の叙述に関する比較作品論研究を進め、この研究分野での中間的成果として書評を『西洋古典学研究』(2022 年)に出版した。

ギリシア悲劇『縛られたプロメーテウス』に関する研究代表者の研究成果としては、2021年10月9日にオンライン学会である古典文献学フィロロギカ研究集会にて「イーオーの旅路予言の叙述構成：『縛られたプロメーテウス』700 - 741, 786 - 818」と題する口頭発表を行い、質疑応答を通じて国内の専門研究者より本研究についての貴重な示唆を受けた。2022年9月15日に、ニューヨーク州立大学主催のオンライン国際学会である Greek Tragedy Symposium において “The Geographical Peculiarities on Io’s Itinerary and her Characterization in *Prometheus Bound*” と題する口頭発表を行い、その際の質疑応答において本研究に関する貴重な示唆を得た。それらの示唆を含めて学術論文として原稿を完成し編集者に提出した。この論文原稿は、海外の出版社から2024年度中に出版予定である。

ヘシオドス叙事詩に関する研究成果としては、2022年11月4日に国際基督教大学キリスト教と文化研究所主催の国際シンポジウム *Perspective on Nature and Environmental Ethics in the Deuteronomistic History* において研究代表者による “The Views of Natural Environment in Hesiodic Epics” と題する口頭発表がなされた。その際の質疑・応答を通して国内外の専門研究者より本研究に関する貴重な示唆を受けた。また2023年9月30日に国際基督教大学キリスト教と文化研究所主催による国際シンポジウム *Perspective on Nature and Environmental Ethics in the Old Testament* において研究代表者による “The Functions of the Earth in Hesiodic Epics” と題する口頭発表が行われた。その際の質疑・応答により国内外の専門研究者より本研究に関する貴重な示唆を受けた。これらの示唆をもとに内容を改訂して学術論文として完成し編集者に提出した。この論文は海外の出版社より2024年度中に出版予定である。

ホメロス叙事詩に関する中間的研究成果としては、研究協力者である大芝芳弘教授(東京都立大学名誉教授)および日向太郎教授(東京大学)と、『イーリアス』に関する書評座談会を2021年8月20日にオンラインにて開催した。この座談会における発言は『ペディラヴィウム』(2021年)に収録掲載された。さらに研究代表者は『イーリアス』におけるメレアグロス物語、ニオベー物語、『オデュッセイア』におけるアガメムノーンの帰郷物語の叙述およびトロイアの木馬の物語叙述を中心に、ホメロス叙事詩における登場人物が語る物語に関するナラトロジー研究の視点を応用した研究を推進するために文献調査を継続し、最終的成果としての学術書の出版に向けて作業を進めた。学術書の原稿を2025年3月までに完成することを目途としている。

プラトン対話篇におけるミュートスの研究については、『パイドーン』、『ポリテイア』、『プロタゴラス』を中心にナラトロジー的観点および文献学的観点から考察をすすめ、この分野での最終成果である学術論文の出版に向けて作業を進めた。

本研究の関連成果としては、アリストパネス喜劇研究におけるナラトロジー研究の視点の応用に関して、研究協力者である桜井万里子教授(東京大学名誉教授)を招聘し2023年10月28日に国際基督教大学キリスト教と文化研究所の公開講演として「ペロポネソス戦争後のアリストファネス」と題する講演をしていただき、その後の質疑応答において、本研究に関する貴重な示唆を得た。研究代表者によるこの講演会の報告が『ペディラヴィウム通信』(2024年)に掲載出版された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐野好則	4. 巻 69
2. 論文標題 <書評>「沓掛良彦『オルフェウス幻想 ヨーロッパ文学にみる変容と変遷』」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『西洋古典学研究』	6. 最初と最後の頁 135-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大芝芳弘、日向太郎、佐野好則(司会)	4. 巻 76
2. 論文標題 『ホメロス『イリアス』への招待』をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ペディラヴィウム	6. 最初と最後の頁 26-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐野好則	4. 巻 46
2. 論文標題 報告：桜井万里子先生講演「ペロポネソス戦争後のアリストファネス」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ペディラヴィウム会通信	6. 最初と最後の頁 43-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 佐野好則
2. 発表標題 イーオアの旅路予言の叙述構成：『縛られたプロメテウス』700-741, 786-818
3. 学会等名 古典文献学研究会フィロロギカ研究集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshinori Sano
2. 発表標題 "Prometheus' Prophecy on the Future Itinerary of Io in Prometheus Bound"
3. 学会等名 Peradotto Sessions III Greek Tragedy Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshinori Sano
2. 発表標題 "The Views of Natural Environment in Hesiodic Epics"
3. 学会等名 Symposium: Perspectives on Nature and Environmental Ethics in the Deuteronomistic History (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshinori Sano
2. 発表標題 Perspective on Nature and Environmental Ethics in the Old Testament
3. 学会等名 Symposium: Perspectives on Nature and Environmental Ethics in the Old Testament (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Perspectives on Nature and Environmental Ethics in the Deuteronomistic History
https://subsite.icu.ac.jp/icc/icc-images/Poster_2022.10.31_Symposium.pdf

Perspective on Nature and Environmental Ethics in the Old Testament
<https://subsite.icu.ac.jp/icc/lectures/lcsicc/#lctr2023>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	University of Denver			
ウルグアイ	Universidad de la Republica			